

10月 2日（金）今日の盛り付け

大皿：三色丼

大碗：なめこと白菜の
味噌汁

小碗：大学芋

トレイ：牛乳



【ひとくちメモ】今日の給食は和食です。

大学芋（だいがくいも）

日本に昔からある料理の^{だいがくいも}大学芋ですが、その起源は^{きげん}中国^{ちゅうごく}であるとされています。元とされているのは「^{パースーディグア}拔絲地瓜」という、^{すあ}素揚げした^{あめ}さつまいもに^た飴がけをした食べもののことで、^{あめ}飴が固まる^{かた}前の^{まえ}熱々^{あつあつ}のうちに^た食べるものです。

いくつか説のある^{だいがくいも}大学芋の由来を紹介します。1つ目の大学芋の由来と語源は、^{だいしょう}大正^{しょうわ}から昭和にかけて^{とうきょう}東京の^{だいがくせい}大学生が^{この}好んでよく^た食べていたというものです。その大学は、はっきりわかりませんが、早稲田大学や東京大学が有力とされています。2つ目は昔、^め東京大学の^{むかし}赤門前に、^{とうきょうだいがく}三河屋という^{あかもんまえ}ふかしいも屋があり、^{みつ}さつまいもに^{から}蜜を^た絡めた食べものが^う売られていました。これが^{だいがくせい}大学生の^{あいだ}間でヒットしたことから、^{だいがくいも}大学芋と呼ばれるようになったという説もあります。3つ目は昭和初期、^{ふきょう}不況で^{がくし}学資に^{こま}困っている^{ひと}人がたくさんいました。そのうちの1人が、^{にん}学資を^{がくし}稼ぐための^{かせ}いい方法はないかと^{ほうほう}考え、^{かんが}さつまいもに^{みつ}蜜を^たかけた食べものを^う売り始めました。^{だいがくせい}大学生が^{かんが}考えたことから、^{だいがくいも}大学芋と呼ばれるようになったという説もあります。

今日の給食も残さず食べましょう(^^♪

